

印旛沼のあれこれ \*\*第9話 「印旛沼の水草たち」\*\*



北印旛沼

かつて水辺には、水深に応じて抽水植物のカサスゲ、ヨシ、マコモ、ヒメガマが帯状に生え、これらに混じってオニビシ、ガガブタ、アサザ等の浮葉植物、さらにインバモ、ササバモ、ガシャモク、ヒロハノエビモ、コウガイモ等の沈水植物も見られました。こうした水草たちが織りなす多様な水辺の環境はエビ、水生昆虫、魚、鳥などの様々な動物たちが生活するための物を創り出していました。

しかし、開発事業で岸辺の構造が改変、単純化され、水草たちの多くが沼から姿を消してしまいました。沼の水草を復活させるためには様々な取り組みがされています、先ず注目したのは、開発で埋め立てられて土中に眠っている水草たちの種子です。埋土種子に期待して沼岸の数か所で試掘しました結果、埋土種子からガシモク、ササバモ、コウガイモ、ヒロハノエビモなど沢山の沈水植物が発芽し、見事な群落を作る場所が有る事を確認できました。特にガシモクは全国で印旛沼、手賀沼流域と北九州市にしか残存しない絶滅危惧種で大きな注目を集めました。

様々な取り組みを通じて印旛沼の底泥には埋土種子が眠っていたし、潜在的な植生復活の力を秘めている事が明らかですが、実際の沼では水草が育っていません、様々な実験を通じて、アメリカザリガニ、ウシガエルのオタマジャクシ、ワタカ（草魚）などによる食害が水草の成長を大きく阻害している事が分かりました。食害への対応が今後の水草復活成功の鍵を握っています。

ところで、特定外来種生物に指定されているナガエツルノゲイトウが圧倒的な増殖力で水面上にマット状に広がり大群落を形成しています。水面で群落が大きくと水へ光が遮断されてしまい、光が届かない水中では沈水植物は育つ事ができません。印旛沼ではナガエツルノゲイトウの撲滅作戦を展開中です。（田邊）

（財）印旛沼環境基金発行「いんば沼 第31号—いんば沼の水草たち」より抜粋



保護育成しているいんば沼の水草



緩傾斜護岸法による試験施工区

編集後記

新春号にふさわしい「環境省より表彰」というおめでたいトピックスで飾ることができました。オイコスメンバーの地道な努力の賜物ですね。（TANA=J）



発行責任者：川瀬 純一  
事務局&問合せ：小原 翔  
☎：047-450-4663  
mail：info@yachiyo-oikos.jp

八千代オイコス  
かわら版

第22号



ナンテン

平成 25 年 1 月 15 日発行  
NPO 法人八千代オイコス  
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

NPO法人八千代オイコス  
「環境省」より表彰受ける

この度、NPO八千代オイコスの日頃の活動に対し環境省より「平成 24 年度 水・土壌環境保全活動功労者」として受賞の栄を受けました。（12月14日付）

これは昭和 62 年（1987 年）当時の環境庁が制定したもので、以来今日では「大気環境及び水・土壌環境の保全に関し顕著な功績のあった団体や故人に対し、その功績を讃えるため環境省水・大気環境局長より表彰状を授与する」として、八千代オイコスが 24 年度表彰となったものです。

今年度は全国 30 の団体、個人が表彰を受けましたが、八千代市が県からの打診に当八千代オイコスを推薦して頂いたもので、八千代市環境保全課より連絡を受け 12 月 19 日（水）に矢口生活安全部長より表彰状を頂いてきました。



春の花輪川

八千代オイコスは 2001 年 12 月に設立して以来八千代市の自然環境保全活動を基本行動に市内北西部を流れる印旛沼水系最上流部の＜花輪川＞を主とした活動の場に「環境美化・自然環境調査や生物多様性の向上」に取り組んできました。

月一回の川の清掃、雑草刈り、側道の花壇作り等の作業を行い、暑さ・寒さの中でメンバーの地道な活動を続けてきた事が認められ、今回の受賞につながった事と会員一同大きな喜びとするところです。

我々の活動の大きな柱である「川の学校」が放射能禍により、24 年度は一時中断の憂目となりましたが、新たな取組みに上流湧水区の水質調査を取り上げ継続活動に加えしました。

今後のオイコスは日頃大変ご協力頂いている環境保全課及び都市整備部土木建設課と共に一層の連携を計りながら、今回の受賞を励みにたゆまぬ活動を継続してゆきたいと思ひます。

（代表 川瀬）



矢口部長、笠原次長、オイコス理事一同